

5 歳児健康診査の実施について

高山市こども未来計画

(1) 「こども家庭の「心身の健康」の推進」

②こどもと家庭の健康維持を図る伴走型支援の推進

○胎児期から成人期までの切れ目のない健診や支援により、生活習慣病や社会生活への不適応を予防し、心身の健康増進を図ります。

○保護者や支援者への発達段階に応じた適切な対応や方法を学ぶ場の提供により、こどもの健全な成長や発達支援を進めます。

○保育・幼児教育施設や小学校との緊密な連携、多職種（医師や心理師、療法士など）との協働により、安心して就学を迎えるための5歳児健診、事後指導を進めます。

1. 5 歳児健診の目的

幼児期において発達障がい認知されやすく、保健、医療、福祉による対応の有無がその後の成長・発達に影響を及ぼす5歳児に対して健康診査を行い、こどもの特性を早期に見出し適切な支援を行い、もって幼児の健康の保持及び増進を図る。

2. 健診の実際（令和7年度から実施）

<概要>高山市保健センターでの集団健診

月2回実施 1回あたり20～30人

5歳の誕生日に実施（学年としては年中）

<健診の流れ>

健診1か月前 所属する園の先生と保護者が面談

健診1週間前 保護者が5歳児健診質問フォームへの入力

健診当日 尿中塩分測定、SVS検査、集団学習、運動遊び、個別評価、医師診察、個別指導

<健診に携わる職種>

医師、言語聴覚士、理学（作業）療法士、公認心理師、保健師、栄養士、保育士、教員

3. 健診結果（12月末現在）

・受診者数（率） 411人（95.4%）

・有所見者（率） 197人（47.9%） 有所見とは→健診判定が「異常なし」以外

事後支援が必要な児の課題は、「ことば」が全受診者の約2割、「情緒・行動」が約1割

・当日の事後指導数 138人（33.6%） 体の使い方、言葉、メディアの使い方、就学について、栄養指導

4. 健診結果を踏まえた課題

・こどもの発達特性等の「気づき」により、支援に繋げる必要がある人数が増加したが、市の支援体制が十分ではない。

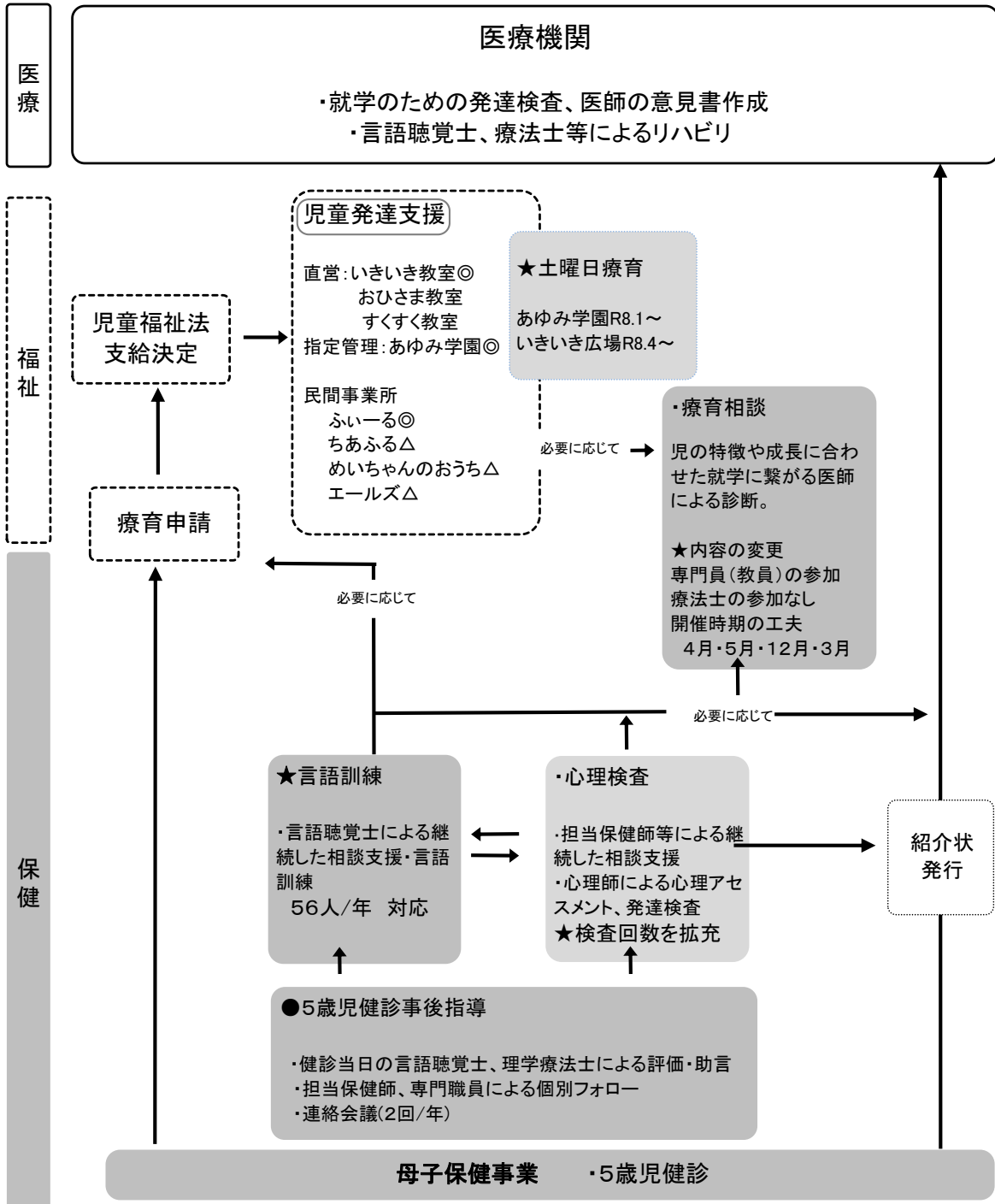
↓

・地域全体で必要な支援を提供するため、保健、医療、福祉、教育の各分野の連携によるフォローアップ体制の整備と充実が必要。

5. 5 歳児健診事後指導の拡充について（裏面）

5歳児健診事後支援体制(令和8年度)

★が令和8年度より変更・拡充予定の事業



子育て世代向け市公式 SNS（こども未来編集部）について

高山市こども未来計画（抄）

(6) 「官民連携」によるこども家庭の施策推進

- 誰もが必要な情報を容易に得られ、相談や仲間づくりができるよう、きめ細かに情報発信や交流を進めることにより、まちづくりへの理解や関心の醸成、参加の促進を図ります。
- 戦略的な情報発信により、伝わる広報の実現を図ります。

市ではこれまで、冊子やHP、メール配信など様々な媒体により情報発信を行ってきたが、それらの既存の媒体では情報が届きにくい子育て世代も少なくない。

このため、「高山市こども未来計画」に掲げる取組みの一つとして、子育て世代をターゲットとした市公式 SNS「高山市こども未来編集部」を開設し、官民連携により運営することにより、「伝わる広報」の実現を目指した取組みを進める。

1. 主なねらい

- 市民目線で共感の得られるわかりやすい情報発信
- 市の担当者が異動しても持続・発展が見込まれる取組みの継続性

2. 発信する内容例

- ・行政によるこども家庭に関する幅広い分野の取組み
 - ・官民によるイベントなどの告知、結果レポート
 - ・子育て当事者や支援者の声の紹介
 - ・地域への誇りや郷土愛が深まる地域資源や魅力の紹介 など
- ※「SNS運用ガイドライン」を策定・公開し、準拠して発信

3. 立上げ経過

- 令和 7 年 9 月方針決定
- 令和 7 年 10 月の 1 か月間、ライターを公募
- 令和 7 年 11 月に応募者を書類及び面接により選考し、10 名をライターに決定
- 【ライターの属性】
- 性別：女性 8 名、男性 2 名
- 年代：30 代前半 1 名、30 代後半 5 名、40 代 4 名 ※全員が自身も子育て中
- 令和 7 年 12 月から運用開始
- 令和 8 年 2 月 21 日「SNS研修会」の開催

4. 発信等の状況

- Instagram @kodomotakayamaofficial 高山市こども未来編集部
- <https://www.instagram.com/kodomotakayamaofficial/>
- 投稿 34 件、フォロワー 830 人（令和 8 年 2 月 18 日現在）

※運用が軌道に乗るなかで、他の SNS に拡大予定



こども誰でも通園制度について

高山市こども未来計画（抄）

(2) こども家庭への「豊かな日常」の提供

② 家庭の就労や育ちを支える保育サービスの提供

○ 保育や幼児教育、その他多様な託児サービスの提供とともに、必要な人材の確保・育成により、保護者が就労と子育てを両立し、こどもが豊かに育まれる環境整備を図ります。

◎ 「こども誰でも通園制度」について、スムーズな開始、運用を進めます。

こども誰でも通園制度は、国が進める「こども未来戦略（加速化プラン）」の一つに掲げられる取組みで、保護者の就労要件を問わず、一定の条件のもと保育施設等が利用できるサービスとして、当市を含む全国の自治体で令和8年度から導入される。

類似の一時保育については、全国の約4分の1の自治体では実施しておらず、それらの自治体の住民にとってはサービス向上となるが、当市においては多くの面で比較優位な制度として一時保育を実施済のため、こども誰でも通園制度の利用は限定的と捉えている。

1. 目的

全てのこどもの育ちを応援し、こどもの良質な成育環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に対して、保護者の多様な働き方やライフスタイルにかかわらない形での支援を強化するため

2. 対象者

保育所等に通っていない0歳6か月から満3歳未満のこども

3. 利用方法等

月10時間の枠内で時間単位で利用

- ① オンラインにより市に利用申請（自治体ごとに初回のみ）
- ② 市からの利用認定を受領（ 〃 ）
- ③ 利用したい保育施設等に事前面談の予約、事前面談の実施（施設ごとに初回のみ）
- ④ オンラインにより希望する施設・日時を予約
- ⑤ サービス利用、利用料の支払い

4. 一時保育との主な相違点

	こども誰でも通園制度	一時保育（高山市の場合）
利用時間	月10時間以内	4時間単位で月24回（96時間）以内
利用料金	300円（1時間あたり）	800円（4時間あたり）
対象者	保育園等に通っていない 6か月児から満3歳未満	保育園等に通っていない乳幼児 （57日※から5歳児）※園の受入れ対象
予約方法	総合システムを利用して原則1週間前までに利用予約	各保育園に1週間前までに利用申請（一部オンライン化済、緊急利用は別途対応）
備考	親子通園も想定	

5. 高山市での制度導入

令和8年4月から公立6園（岡本、荘川、久々野、朝日、本郷、栃尾）で開始
その後、一時保育を実施中の私立保育園、幼稚園などでの実施を想定

こども若者オンライン意見箱（言え〜る）の運用状況について

高山市こども未来計画（抄）

(5) こどもの「意見反映」と参画促進

◎こどもがまちづくりに参画する仕組みを整えるなど、こどもの意見が反映される社会をつくることにより、将来の社会の担い手の育成を進めます。

○オンライン意見箱の設置、結果のフィードバックなど様々なチャンネルを通じたこどもの意見聴取や参画機会の創出を図ります。

市ではこれまで、アンケート調査や施設に出向いての意見聴取、原山市民公園の再整備に際しての人気投票などにより、こども若者の意見聴取を行ってきたが、こども若者の意見の尊重を基本理念の一つとする「こども基本法」が定められるなど、これまで以上に推進が求められている。

このため、「高山市こども未来計画」に掲げる取組みの一つとして、こども若者を対象とした「高山市こども若者オンライン意見箱（愛称：言え〜る）」を設置し、誰もが意見を出しやすい環境整備と意見に対しフィードバックできる仕組みづくりにより、こどもの意見を取組みに活かしつつ、未来を担う人材づくりを目指した取組みを進める。

1. 主な経過、周知

- 9/26 「高山市民時報」掲載
 - 10/1 高山市こども若者オンライン意見箱（言え〜る）の開設
 - 10/2 メール配信、「中日新聞」「PRTIMES」掲載
 - 10/20 小中学校校長研修会での呼びかけ
 - 10/24 高山市公式インスタグラム掲載
 - 11/1 「広報たかやま」掲載
 - 11月 学校を通じた小中学生へのチラシ・小6への啓発グッズ（消しゴム）の配付
FMラジオ「知っとこたかやま」放送
 - 12月 月刊さるぼぼ「きっザインフォ」掲載、高山市公式HP トップへのバナー掲載
- ※今後は、出前授業の実施や市役所事務用封筒への公告掲載など、引き続き周知啓発を推進

2. 意見の提出状況（令和7年10月～令和8年1月）

(件)

	こども			若者			合計		
	件数	要回答	公開可	件数	要回答	公開可	件数	要回答	公開可
10月	1	1	1	30	6	4	31	7	5
11月	95	21	19	10	1	0	105	22	19
12月	0	0	0	2	0	0	2	0	0
1月	8	3	3	0	0	0	8	3	3
合計	104	25	23	42	7	4	146	32	27

※当初、提出された意見は全て公開を想定していたが、既存のご意見箱との整合を図り、要回答のうち公開可と意思確認したものを公開対象とし、併せて住所や電話番号の記入を求めるよう見直し

3. 意見の分類

(件)

分類	主な内容	子ども	若者	合計
生活環境	防犯灯の増設、クマ対策の推進、ポイ捨ての廃絶、安心なまち	31	5	36
地域資源	豊かな自然の保全、祭りや文化の保存、伝統工芸の継承	25	0	25
遊び場	屋内の遊び場や公園の整備、若者に魅力あるまち	14	5	19
居場所	居場所や学習スペースの確保、放課後児童クラブの運用見直し	6	0	6
経済支援	保育料・子ども医療費の充実、結婚支援の充実	1	4	5
学校教育	体操服や「〇〇さん付け」の見直し、学校施設の改修	12	0	12
商業	ショッピングセンターや映画館の整備、店舗の増加	15	6	21
基盤	歩道の整備、雑草などの維持管理、駐車場への照明設置	2	3	5
交通	バスなどの交通手段の充実	2	5	7
多様性	オーバーツーリズム、外国人政策	1	4	5
その他	イベントの開催方法、町内会活動の見直し、観光への偏り、感想	9	11	20
合計		118	43	161

※2. と合計が合わないのは、1回(件)に複数の分類の意見が含まれる場合、分けて集計したもの

4. 提出された意見とその回答例

『子どもタクシー』をつくってほしい。理由は友達と遊ぶときに親に迎えに来てもらうのがたいへんだからです。(小学2年生)



子どもだけでも遠くへ行けたり、雨や雪の日でも安心して友達の家などに行ける「子どもタクシー」があるといい。とても良いアイデアで、高山市はとても広いので、そんな乗り物がほしい子どもや親は、とっても多いんだろうと思います。

「全国子育てタクシー協会」という団体があって、子どもが安全に利用できるように勉強した運転手が、例えば保育園や学習塾から子どもを乗せて、家につれて帰ってくれるといった「子育てタクシー」という取組みがあり、あなたの出してくれた意見に近いと感じました。

ただし、利用する前に、運転手が子どもを預かる人、子どもを引きわたす人を分かっておく必要があったり、チャイルドシートの準備、急病の時の対応など色々な「大変さ」もあって、高山のまちなかでは、今のところ「子育てタクシー」を利用することはできません。

その代わりということではありませんが、高山市では、のらマイカーやまちなみバス、匠バス、たかね号について、小学生から高校生が無料で利用できる「ヤングパスポート」という取組みを行っています。まずは親や大人と一緒にこれらのバスを利用して、なれてきたら子どもだけで乗ることもできるので、近くのバス停や運行時間などを調べてみてはどうでしょうか。

こどもの遊び場をもっと増やしてほしいです。子どもが集まれる広場があったらいいな。(小学3年生)



遊び場や広場といった、子どもや親子で楽しめる場所、ふやしていきたいですね。

令和7年3月に定めた高山市の子ども分野の基本方針である「子ども未来計画」では、屋内・屋外の「こどもの遊び場」の魅力向上のための施設を整備し、利用を進めることにより、楽しく、健やかに子どもが育つための環境をつくり、地域へのほこりと愛着を育むこととしています。

屋外の施設では、原山市民公園、赤保木公園(市民プールを含む)、サッカー場(大八グラウンド)を整備したほか、現在、野球場(中山公園)や公園の再整備などを計画しています。

屋内の施設では、モンデウスパーク(一之宮)、ひだ木遊館(木っずテラス)を整備したほか、現在、高山駅の西側に文化会館と合わせたこどもの遊び場づくり、清見・久々野・丹生川の各支所庁舎のなかにある「つどいの広場」の再整備などを計画しています。

みんなに使ってもらえるように、そういった遊び場の情報を広くお知らせしていくこと、みんなの意見を取入れた遊び場づくりといったことも、合わせて進めていきますね。

高山の美しい自然を残したい。総合の学習で市役所の人に意見を伝える時があるのでその時に伝えてくれたらありがたいです。(小学6年生)



そのように思ってくれて、ありがとう。

日本一広い高山市、その9割以上が森林で占めるまちであり、山や溪谷、溪流(川や滝)など豊かな自然の魅力は、とても重要な地域資源(地域の魅力)の一つです。

私たちの暮らしに安らぎや潤いをもたらす以外にも、農業や林業、畜産業、木工業、観光関連産業など、地域のなりわい(仕事)と密接に関わっており、安全安心な食を提供する基礎にもなっています。世界的に地球温暖化が急速に進みつつあり、夏がとても暑く、長くなっていますが、自然が失われ、化石燃料が燃やされることにより加速しています。

自然を守ることと、人が暮らす(生きる)ことは密接に関わっているため、是非一緒に考えて、身近にできることを取組んでくれたらうれしいです。

小さい子たちが遊ぶ公園が多いけど高学年が遊ぶ場所が少ないのもっと誰もが遊べるようなモールなどを作って欲しいです。(小学6年生)



都会にあるような大型ショッピングモールを高山市内にも作ってほしい。正直、とてもたくさん耳にする意見です。

まず、高山市にも規模は色々ですが、大規模な商業施設はあり、全国でも大手の飲食店、スポーツや家電、雑貨、衣類などの店は、暮らしていくのに十分困らないレベルでそろっていると捉える人もあると思います。

そのうえで、商業(商売)の世界では、かかる経費(建物の建設費、人件費や仕入れなど日常的な運営費、税金など)より、入ってくる収入(物やサービスが買われる代金、売上げ)が上回らないと、赤字(マイナス)になってしまうため、事業が続けられません。(皆さんのお小遣いやお年玉と、基本的には同じです。もらえる以上に使ってしまうと、困ったことになりますよね。)

高山市(飛騨地域)の人口規模では、普通に考えたら、この収入(売上げ)と経費(支払い)のバランスを整えるのが難しい(物やサービスを買ってくれる人が足りない)ため、大型のショッピングモールなどは進んで立地しない現状です。

一方で、高山市は年間500万人近くの観光客の訪れる都市でもあり、観光客の力も借りたらプラスにできるんじゃないか、マイナス部分を公費(税金)等で穴埋めすればいいんじゃないか(簡単なことではありませんが)など、様々に議論することは重要と考えています。

単に、「誰かが大型商業施設を作ってくれないか」ではなく、どのような方法なら、高山市の子ども若者が地域に魅力を感じて、暮らし続けたいと思えるのか、これからの時代に高山市ではどのような産業や商売が相応しいのかなどについて、一緒に話し合い、ともに取組んでいく、そんな姿を期待しています。

家庭の事情で塾に行けないので、公共施設で勉強する場が欲しいです。図書館や村半などがありますが、勉強以外の利用者ももちろんいるので、、、。自習室に近い、より集中できる環境の場所が欲しいです。私の周りにも塾に行きたくても行けない人がたくさんいるので、その子たちにとっても最高の場になると思います。お願いします?(中学3年生)



頑張っているんですね。進学などにあたっては、就学援助制度や奨学金などの経済的支援もありますが、それぞれの家庭の事情により、学習塾に行きたくても行けない子ども達があることは、厳しいかもしれないですが現実です。であるからこそ、そのような子ども達の努力を応援し、「逆境」もはね返して夢を実現する姿をかなえさせたいという願いを、私たち大人も持っています。

意見のなかで触れてみえる煥章館が自習には最も適していると感じますが、村半や大政、文化会館でもスペースが見つけられると思います。

そして探したがスペースを見つけにくい、見つけたが自分のニーズ(学習)が満たしにくい、といった事がありましたら、施設を管理している大人に相談してみてください。あなたと異なるニーズをもった利用者との調整が必要となることも理解いただけたらと思いますが、親身になって考えてもらえると思いますよ。なぜなら、私たち大人も、あなた達を応援したいのだから。

末広町にある市民広場の遊具ですが、鉄?の部分が痛んでおり、小さい子が手をついて登り降りするときに足を切ったりしそうで危ないです。観光客もよく通ったりして遊ぶ公園なのでしっかりメンテナンスをお願いします。(30代)



末広町の市民公園の遊具に対するご意見ありがとうございます。

各公園の遊具については毎年点検を行っており、市民広場の複合遊具についても手摺部分やその他のカバー部分が老朽化により綻びが出てきていることは確認しております。

今回ご指摘の損傷部分を直すには遊具全体の改修が必要となり費用と時間がかかることとなります。現在応急措置で対応する方向で検討しており、方法が決まり次第対応しますのでお願いいたします。